

令和2年度 奈良県立五條高等学校（賀名生分校）学校評価計画表

<p>学校経営方針</p>	<p>「行きたい」「行かせたい」「来てよかった」と思える魅力ある学校づくり ～「夢」「希望」そして「挑戦」～</p> <p>本校では、将来の目標を見据えて、「社会で自立して生き抜く力の育成」を目指し、「未来につながる確かな学力」、「豊かな心で人と連なるコミュニケーション能力」、「困難に打ち克つ体力・忍耐力・規範意識の向上」に努める。そのため生徒それぞれに、「夢」、「希望」、そして「挑戦」をキーワードとして生徒自らが主体的に取り組む態度を育成する。</p>	<p>総合評価</p>			
<p>前年度の成果と課題</p>	<p>これまで、創造的で独創的な多くの取組みを積極的に実践することによって ①『学校の魅力づくり』 ②『入学生徒の確保』 を学校経営の主眼として学校の活性化に取り組んできた。今、奈良県南部・地元五條市等の少子化の進行で不安定要素が大きくなっている。今までの取組みを通して明らかになった課題を整理する中で、農業の担い手の育成やスキルアップを図るなどの改善点が見えてきた。 平成30年度から全国募集を始め、新たな学校としてよりよく生まれ変わるため、県内外から入学する生徒・保護者や地域の期待に応えるべく、計画の充実をさらに図る必要がある。</p>				
<p>本年度の重点目標</p> <p>具体的目標 ○主な具体的方策</p>	<p>評価の指標（担当）等</p>	<p>自己評価</p>	<p>成果と課題</p>	<p>改善方策等</p>	<p>学校関係者評価</p>
<p>1 魅力ある進路実現 ～進路指導をはじめ魅力ある進路実現への対応～</p>					
<p>(1) わかる授業の展開 (2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ①静かで落ち着いた学習環境づくり ○学習活動の工夫を図る。 ②魅力ある授業の創造 ○基礎・基本の定着 (3)進路保障にかかわる取組の充実 ○計画的・系統的な進路指導</p>	<p>⇒生徒アンケート「授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができている。」（教務部） 本年度<目標:80%></p> <p>⇒保護者アンケート「授業の内容や進め方に満足している」（教務部） 本年度<目標:90%></p> <p>⇒生徒アンケート(第4学年)「自分の希望する進路実現ができた」（進路指導部） 本年度<目標:80%以上></p> <p>⇒生徒アンケート(全学年)「生徒一人ひとりの進路に応じて、丁寧な指導が行われている」（進路指導部） 本年度<目標:80%></p>				
<p>2 充実した学校生活 ～学校行事の充実と部活動の活性化～</p>					
<p>(1) 学校行事の精選と内容の充実 (2) 部活動の活性化 ①心身の健康保持、増進 ②体験活動の充実と忍耐力の育成 ③コミュニケーション能力の向上</p>	<p>⇒部活動加入率（生徒指導部） 本年度<目標:50%></p> <p>⇒各体育行事の参加率（保健体育部） 本年度<目標:95%></p> <p>⇒生活体験発表会への参加（教務部） 本年度<目標:全員></p>				
<p>3 安心して通える（通わせる）ことができる学校づくり ～きめ細やかな生徒への対応と生徒指導の充実～</p>					
<p>(1) 日頃から生徒及び保護者との関わりを大切にする (2) 共通理解、同一歩調、全校体制で指導にあたる ①積極的生徒指導の推進 ②人権教育の推進 ③規範意識の醸成 ④地域貢献活動による生徒の主体的活動の推進 ⑤現場実習等により社会性の醸成と正しい勤労観の育成</p>	<p>⇒生徒アンケート「生徒会・ボランティアの活動は活発で、関心が持てる内容である」（生徒指導部） 本年度<目標:70%></p> <p>⇒事故件数・違反件数（生徒指導部） 本年度<目標:0件></p>				
<p>4 外部との連携・情報発信の強化 ～開かれた学校・地域とともにある学校～</p>					
<p>①五條市・五條市教育委員会・地元自治会・老人会等との連携 地元幼稚園との連携強化</p>	<p>⇒地元行事への積極的参加 本年度<目標:5回></p> <p>⇒農業クラブ 本年度<目標:5回></p>				

②学校・家庭・地域・関係機関との連携強化	⇒学校行事への育友会会員の参加者数（総務部）	本年度<目標:20%>				
③入学希望者数の確保	⇒学校ブログ年間更新回数（総務部）	本年度<目標:250回>				
④ホームページの充実	⇒ホームページでの情報発信（総務部）	本年度<目標:年間20回>				

各分掌等の評価計画

分掌等	具体的目標	具体的方策	評価の指標等	自己評価	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
総務部	4-② ○学校関係者への情報発信の充実に努め、積極的な意見聴取を行うことにより、学校・家庭・地域の連携をより強化する。	・育友会・同窓会等との連携を密にし、学校運営に対する協力・援助を求める。 ・育友会役員会の在り方を工夫し、参加しやすい状況を確認する。	・育友会・同窓会の定例会に参加し、機会に応じて学校との交流を図る。 ・育友会の学校行事への参加意識を高める。 本年度<目標:20%>				
	4-②③ ○中学生やその保護者を対象に賀名生分校の魅力情報を発信する。	・賀名生分校紹介のパンフレット等を作成する。 ・学校説明会（中学校・保護者等）を開催する。	・賀名生分校独自のパンフレットの内容を改訂し、県内全中学校に配布する。 ・学校説明会を開催し、機会あるごとに個別相談等も実施し、賀名生分校の特色を理解してもらう。 本年度<目標:5回以上>				
	4-③ ○中学生に本校の様子について体験できる機会を提供する。	・中学生の高校見学を開催する。	・8月第3土曜、11月第3土曜に開催する。 本年度<目標:参加人数60人以上>				
	4-① ○地元幼稚園との交流。	・学校へ招待したり、定期的に訪問し、交流の機会を設ける。	・ふれあい健康祭や、食育活動・農業実習等、機会に応じて交流を図る。 本年度<目標:20回以上>				
	4-④ ○学校ホームページやブログを充実させる。	・学校ホームページの充実を図り、保護者等にリアルタイムで学校の状況を伝える。	・生徒の様子をリアルタイムで伝え、情報をタイムリーに発信する。内容の充実を図り、アクセス数を増やす。 本年度<目標>:月5,000件				
教務部	1-(2)-① ○座学と実習の時間割配置の工夫	・農業科の総合実習等、校外で取り組む授業や非常勤講師の授業を中心に時間割を作成する。 ・座学に影響が出ないように、実習を休日前に配置する。	・座学と実習の時間割配置の工夫により、生徒が主体的に学べる態勢づくりに努め、出席率の向上をめざす。 本年度<目標:95%>				
	2-(2)-② 4-① ○地域との連携による社会性の醸成などに努める	・「ふれあい健康祭」や地域の福祉施設訪問等を実施し、地域の様々な世代との交流を通じて、挨拶等の礼儀や他者に対する思いやりを身につけられるように指導する。	・学校行事等の意義の確認を徹底し、参加率の向上を図る。 本年度<目標:95%>				
生徒指導部	3-(2)-③ ○規範意識の向上と基本的な生活習慣の確立。	・服装・礼儀・挨拶など日常生活に関わる基本的なルールを守る姿勢を育てる。 ・生徒会活動やボランティア活動を活性化し、リーダーを育成することで全生徒の規範意識向上を図る。	・校内やバス停の巡視を行い、生活態度やマナーについての指導を行う。 本年度<目標:毎日> ・寮の生活指導員との報告会を行い、生徒理解に活かす。 本年度<目標:毎月1回> ・生徒会による美化活動、募金活動、ボランティア活動を積極的に行う。 本年度<目標:年間10回>				
	3-(2)-① ○多様な生徒と問題行動に対する指導の確立。	・教員間の報告・連絡・相談を重視し、諸課題について教員間の共通理解を図る。 ・いじめの防止等のための基本方針に基づき、いじめの防止、早期発見につとめ、組織的な対応を行う。	・職員朝礼や職員会議等において、問題の内容や経過についての報告を行い、組織的な対応を図る。 ・個人別生活カードの円滑な運用を図る。				
	3-(1) 4-① ○保護者や各関係機関との連	・支援を要する生徒の指導では、保護者の理解・協力を得ながら、各	・スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを活用する。				

	携。	関係機関との連携を行う。						
	3-(2)-① ○安全教育の推進。	・各関係機関との連携し、危機管理や安全についての意識を高める。	・警察、消防署、医療機関などと連携を図り、薬物乱用、災害への対応、防犯対策等について講演会を開催する。 本年度<目標：年間2回>					
進路指導部	1-(3) ○計画的・系統的・組織的に進路指導を行う。	・年間計画に沿って、HRで進路指導を実施するためのワークシートを準備する。	・各学年の進路目標を設定し、ホームルームにおける系統だった進路指導を実施する。 ・面接カードを作成し、生徒の振り返りに活用する。 ・進路ファイルを作成し、生徒の振り返りに活用する。					
	1-(3) ○多様な生徒一人ひとりの進路の実現に向けて、明確な目的意識を持って生活させる。	・進路実現に向けたHR活動や個別相談の体制を整える。 ・就労体験等の事前指導・振り返りを充実させて、よりその効果を高める。 ・支援が必要な生徒を安定した雇用(福祉就労A)に結びつける手立てを構築する。	・ハローワークや関係機関と連携し、生徒の進路実現につなげる。 ・ホームルームを利用し生徒の基礎学力を育成する。 ・農業実習やインターンシップ等を振り返る機会をつくり、進路実現のための目標を持たせる。					
	1-(3) 3-(2)-⑤ ○望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。そして、早期離職を未然に防ぎ、就職先への定着を高める。	・卒業生の定期的な状況調査を実施すると共に就職先の訪問により可能な限り現状を把握し、記録を残す。 ・インターンシップの受け入れ先を新規に開拓し、様々な生徒のニーズに対応する。	・旧担任への協力を求め、定期的な状況調査の実施と卒業生就職先と連絡をとり、可能な限り現状を把握する。 ・インターンシップの受け入れ先を新規に開拓し、生徒のニーズに対応したインターンシップ受け入れ先を見つける。 ・日誌、評価表を活用し事前指導・振り返りを充実させる。					
人権教育部	1-(2)-② 3-(2)-② ○職員の人権意識の資質向上を図る。	・職員研修として、HR指導案の検討等を行う。 ・人権HRの他、学校行事等により、生きる力を養う。	・職員会議時の研修として、ホームルーム指導案の検討等をおこなう。 ・県主催の研修会や高入教、県外教の研修会等の案内、参加を呼びかける。					
	3-(2)-② ○生徒の人権意識の向上を図る。	・人権全校学習会で人権をテーマとした行事を実施する。	・生徒の身近な話題をテーマとした人権に関する映画会を実施する。 本年度<目標：年間1回>					
	3-(2)-① ○特別支援教育の向上に努める。	・支援を必要とする生徒の把握を職員間での情報共有を図る。	・家庭や中学校との連携を深め、支援を必要とする生徒の把握に努める。 ・職員会議時に支援を必要とする生徒に関する情報の共有を図る。					
保健体育部	2-(2)-② ○心身を鍛え、体力の向上を図る。	・興味・関心を引くよう行事内容を検討して、積極的な参加を促す。	・体育行事参加率を高める。 本年度<目標：95%以上>					
	2-(2)-① ○食育指導を通じて、健康意識を高めるとともに生活習慣の改善を図る。	・昼食時等を活用して指導を行う。	・アンケートを実施して、欠食率を把握する。 本年度<目標：10%未満>					
第1学年	3-(2)-③ ○規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・高校生としての自覚と基本的な生活習慣を身に付けさせる。また、挨拶、言葉遣い等の人として必要な素養を身に付けさせる。	・家庭訪問や寮長(舎監)との面談を実施し、家庭や寮との連携を図り、欠席・遅刻の減少に努める。 ・登下校時の挨拶はもちろんのこと、授業での挨拶や学校生活における言葉遣い等を正しく身に付けられるよう、できるまで繰り返し指導する。					
	1-(1) 1-(2)-② 1-(3) ○基礎学力を身に付けさせる。	・日々の授業の大切さを理解させ、学習に取り組む姿勢の向上に努める。	・考查点がすべてではないこと、日々の授業の様子や提出物等も成績として評価されることを理解させ、日々の授業を大切にし、各科目の欠課時数を減らすとともに、ノート、プリント等の課題に積極的に取り組ませる。					
第2学年	3-(2)-③ ○規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・挨拶、言葉遣い等の礼儀作法を身につけさせる。また授業に集中して取り組む姿勢を養う。	・社会人として必要な挨拶、返事、言葉遣い等を意識させ、繰り返しをかける。 ・時間のけじめをつけさせる。					
	2-(2)-③ 3-(2)-③ ○他人を思いやる心を持たせる。	・各自が2年生の一員であることを自覚し、集団の中での円滑な人間関係を育成させる。	・日常的に生徒の観察を行い、声をかける機会を多く持つ。また、状況に応じて適切に関わり、人間関係形成力を身に付けさせる。					
	1-(3)	・農家実習やインターンシップを通	・農業実習やインターンシップを振り返る機会を作り、自					

	○卒業後の進路を意識させる。	して、主体的に自己の進路について考えさせ、具体的な進路目標を設定させる。	分に必要な力を考えさせる。また、HR等を利用し、将来の進路実現に向けての目標を持たせる。						
第3学年	3-(2)-③ ○規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・社会人として必要な礼儀作法や規範意識を身に付けさせる。	・場をわきまえ、他者を思いやる言動ができるようになる。 ・修学旅行などを通して集団行動、規範意識を身に付けさせる。						
	1-(2)-① 2-(2)-③ ○学習方法と表現力の向上を図る。	・学ぶ方法や学んだことの表現方法を身に付けさせる。	・座学、実習を関連させて学んでいるか、学んだ事柄を自分の言葉で伝えられるかの確認に努める。						
	1-(3) 3-(2)-⑤ ○進路目標を具体的にさせ、その実現に向けて取り組ませる。	・進路目標を主体的に模索し、その実現に向けて取り組ませる。	・就労活動を通して進路に関する希望や意志を随時確認する。 ・インターンシップやオープンスクールに参加させる。						
第4学年	3-(2)-①③ ○最高学年としての自覚と責任をもたせる。	・下級生の模範となるような生活習慣や生活態度について考えさせる機会を多く設け、自身の生活習慣を振り返らせる。	・欠席日数を5日以内に抑える。 ・週の初めに、正しい服装の着方を確認する。 ・週の終わりに、ロッカーや机などの教室環境を確認する。						
	1-(3) ○生徒の希望や適性に合った進路の実現。	・進路指導用シートを利用しながら、正しい勤労観・職業観を養う。 ・保護者の意見や、生徒の適性や可能性を活かした進路指導を行う。	・進路指導について、生徒、保護者との面談を複数回行い、指導用資料をととのえる。 ・進路先とのミスマッチがないように、必ず会社見学を行うってから試験に臨ませる。						
	1-(3) 2-(2)-③ ○社会人になるにあたって、心構えやマナー、ソーシャルスキルを身に付ける。	・他者を気遣う言葉遣いやコミュニケーションの取り方を学ぶ。 ・社会において、一般的なマナーについて知識を身に付ける。	・敬語やマナー、コミュニケーションに関するワークシートを完成させる。 ・就職面接、またその練習を通じて、実践的にソーシャルスキルを身に付ける。						
農業科	1-(1) 1-(2)-② ○基本的な農業技術の定着を図る。	・実験実習を重視し、実践的な授業を展開する。 ・生徒が積極的に学ぶことができる、安心・安全な農場づくりに取り組む。	・実験実習を50%以上行う。 ・農場の整備不足による、実習中のケガ人をなくす。						
	1-(2)-② 3-(2)-⑤ ○地域農業の状況や課題に関する学習内容の充実を図る。 ○地域農家での実習を充実させる。	・農家での実習により、技術だけではなく、勤労観や経営観を育成する。 ・実習を実施するまでの事前指導を充実させる。	・実習記録を毎回記入させ、年間を通じた振り返りの機会を設ける。 ・農業用具の安全かつ効率的な使用法やマナーについての基準を作成する。						
	3-(2)-④ 4-① ○農業クラブ活動の充実を図る。	・各競技会にむけた取り組みを強化し、地域行事などに積極的に参加する。	・県連盟競技会、発表会に3部門以上参加し、近畿大会・全国大会に出場する。 ・地域のイベントに年間5回以上参加する。						